

# 平成29年度 実績(採択事業①)

—静岡県ヘルスケアビジネスモデル構築・実証等事業—

|      |  |
|------|--|
| テーマ  | ア 地域における現役世代の健康を支える事業  |
| 実施主体 | 株式会社ニューウェーブ(藤枝市)   |
| 事業名  | 地域の中小企業における健康経営実施の促進と、その効果の検証                                    |
| 概要   | 福祉業種／腰痛・肥満を課題とする事業者への運動等プログラム作成と実践と効果の検証<br>⇒ 福祉人材の健康課題を解決して元気に！ |
| ポイント | 代表者が、鍼灸マッサージ師・健康経営アドバイザーである強みを活かし、「腰痛」を切り口に介護・福祉事業所の健康経営をサポート    |



# 実施した事業の概要

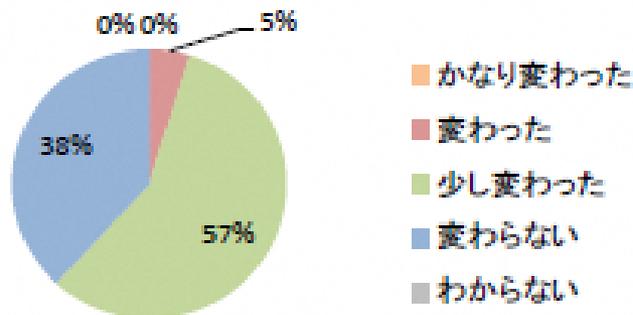
|                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| <p>ビジネスモデル<br/>の構築</p>            | <p><b>1 先進事例の調査、アンケート</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「静岡県の健康づくりに関する事業所意識調査」(平成29年7月・静岡県健康福祉部健康増進課)によると、医療福祉業では腰痛が61%という結果</li><li>・腰痛は業界全体の課題であり、腰痛検査後の対応は個人対応の傾向にあることを地域の中規模介護事業所9事業所に事前アンケート等から把握</li></ul> <p><b>2 構築したビジネスモデル</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>①対象者選別のためのアンケート実施</li><li>②アンケートデータを基に、管理者に相談し、個別対応対象者(③参照)を選出</li><li>③プログラムの実施・提供(全5回シリーズ)<br/>※全員対象向け「健康セミナー」及び個別対応(腰痛の重い者)へのマッサージ</li><li>④全サービス提供後に対象従業員(受益者)にアンケート実施</li><li>⑤従業員から得られたアンケートデータの抽出、管理者への提供</li><li>⑥データを見た管理者へ聞き取り・記述式アンケートを実施</li></ol> |
| <p>トライアルサー<br/>ビス(実証)の<br/>実施</p> | <p><b>1 実施対象</b><br/>県内中部地域の福祉・介護事業所(3事業所)の従業員140名程度</p> <p><b>2 実施内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>①健康セミナー(5回シリーズ:講話+ストレッチ実践)<br/>第1回 「見える腰痛・見えない腰痛」<br/>第2回 「“冷え”の対策で腰痛予防」<br/>第3回 「栄養編—何を食べるかより、どう暮らすか」(地域の管理栄養士監修)<br/>第4回 「睡眠編—“うつ”と“不眠”」<br/>第5回 「ストレスとの上手な付き合い方“ストレス・マネジメント”」</li><li>②個別マッサージ(腰痛の重い者のみ)</li></ol>  |

# 実施した事業の成果

- A事業所

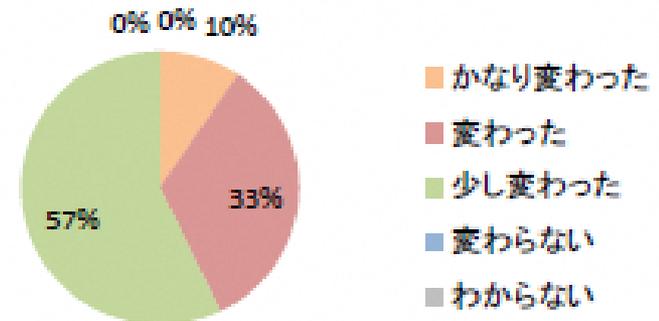
A-1

## 腰痛の変化



A-3

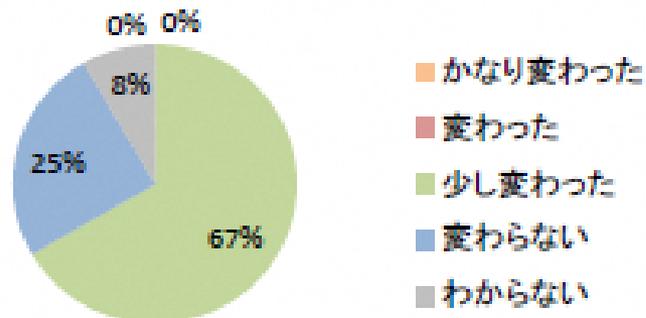
## 健康への意識変化



- B事業所

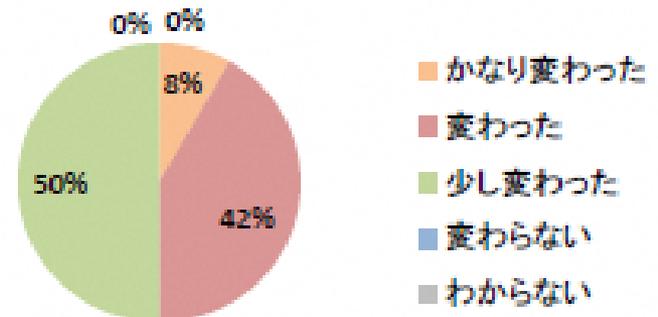
B-1

## 腰痛の変化



B-3

## 健康への意識変化

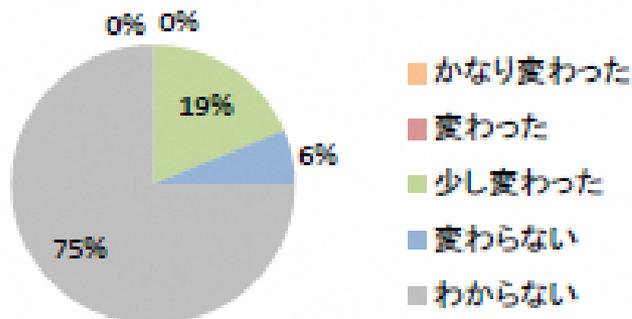


# 実施した事業の成果

## ・ C事業所

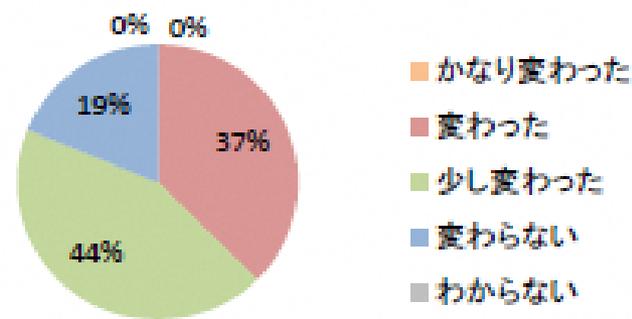
C-1

### 腰痛の変化



C-3

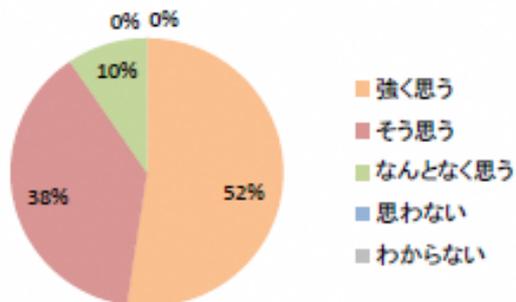
### 健康への意識変化



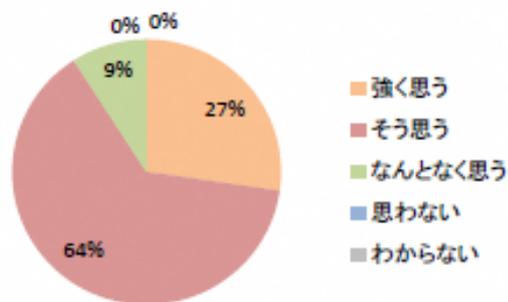
※C事業所は諸事情によりトライアルサービスの提供回数が他の事業所に比べ少なくなったため、傾向が他の事業所と異なっている

## 実施した事業の継続希望（従業員側へのアンケート）

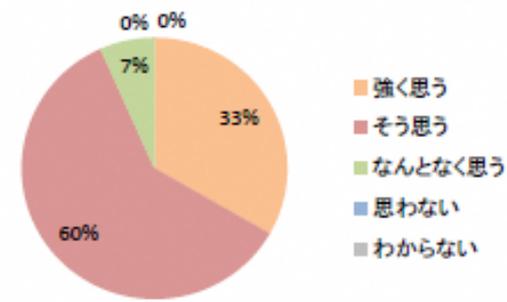
### ・ A事業所



### ・ B事業所

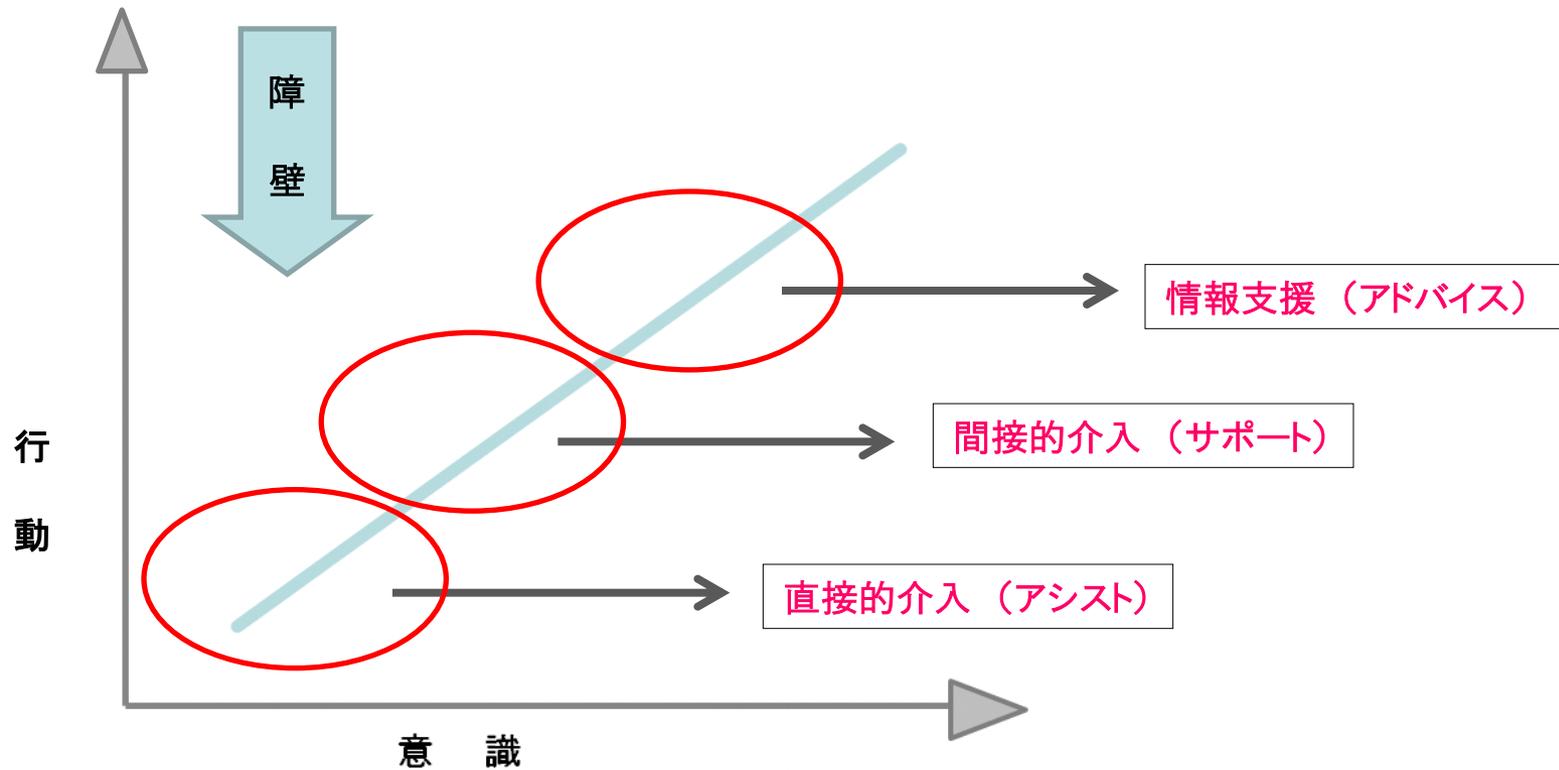


### ・ C事業所



- ・課金によるサービス利用の継続について、経営者からの理解を得られたのは、うち1事業所
- ・「健康経営の見える化によるアプローチ」を含めた事業提案が今後の課題

# 実施した事業の考察



- ・健康意識の低い人には行動変容は自主的に起きにくく、生活習慣などによる障壁(行動抑制)もある。これらを除くためにも、健康経営などによる外部からの介入が必要だと感じられた。